

校長ニューズレター(第40号・3月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



「オール1の落ちこぼれ、教師になる」

宮本延春さんの書いた「オール1の落ちこぼれ、教師になる」(角川書店)をよみました。

36歳ではじめて高校教師になった人の実話です。この方は、中学1年の成績表が、すべての科目で“1”でした。いわゆるオール1です。

勉強嫌いは小学校の低学年から始まったそうです。原因の一つは、“いじめ”でした。もともと無口で気が弱く体も小さい上に、転校ばかり繰り返していたので、格好のいじめの対象にされたそうです。中学生になっても、いじめはエスカレートするばかり。九九や分数も分からないのに、中学校の数学について行けるはずがありません。

その後の人生を追ってみましょう。

九九がわからずに中学を卒業。

高校に行かずに大工になる。

アインシュタインのテレビ番組を見てスイッチがはいる。勉強が猛烈にしくなった23歳。

小学3年生の算数ドリルから始める。

定時制高校に入学。働きながら、必死で勉強。

なんと愛知県で数学の試験が1位になる。

名古屋大学(国立)に合格。27歳の時だ。

高校の数学教師になる。今りっぱな教師になって活躍しています。

以上の実話は、長田小学校の子どもたちに朝会を利用してお話ししました(もう数か月前のことなので、忘れていたかもしれません)。

ところで、お子さんに「なぜ勉強しないといけないの？」聞かれたことはありませんか？

このことはとても重要なことなので、お子さんとぜひ話し合ってみてください。

「人はなぜ勉強するのか(千秋の人 吉田松陰)」

岩崎文吉著を読んで、つぎのようなことを考えました。

まず、お子さんは夢をもっていますか。夢をもっていると、人はそれを実現するために勉強を一所懸命しますね。

夢というのは、表現を変えれば、「自分はこういう人間になりたい」ということです。例えば、医者になりたいとか、科学者になりたいとか…。

夢をまだもっていない人は、自分が何になりたいか、これから探すことになります。

探し方は、学校で習う国語、算数、理科、社会や体育、音楽、図工、総合学習などを全力で勉強してみることです。やってみると、自分の得意な分野や好きな科目が分かってきます。勉強することで、自分のもっている能力(大切な宝物・個性)が発見できるのです。大事なことは、全力でやってみること。中途半端では、中途半端なことしか発見できません。

人はなぜ勉強するのかの一つの答えは、夢を実現するため、夢を発見するためです。

このようなことをヒントに、ご家庭でぜひお子さんと「なぜ勉強するのか？」について話し合ってください。オール1だった先生のように、本気で勉強を始める時期に遅い早いということはありませんから。

地球上に、勉強したくてもできない子どもたちがたくさんいます。長田小学校の子どもたちは、勉強をしようと思えばいくらでもできる国に住んでいます。

たとえ今、成績がたいへん悪くても、がんばればだれでも成績がよくなるし、夢の実現性も高まります。ぜひ子どもたちを励ましてください。